

## 放射線管理

## 放射線業務従事者の放射線管理

当社の原子力発電所では、放射線業務従事者の被ばく線量を可能な範囲で極力低減するため、水質管理等による作業場所の線量率の低減や作業時の遮へいの設置、作業の遠隔化・自動化を行っています。放射線業務従事者が実際に受けている被ばく線量は、2011年度実績で平均0.8ミリシーベルトであり、法定線量限度の年間50ミリシーベルトを大きく下回っています。

詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報 (P2参照) > [原子力発電所の放射線管理](#)

## 原子力発電所周辺の環境放射線管理

当社の原子力発電所の運転中にはごく微量の放射性物質が放出されていますが、これに伴う放射線量は、法令で定める限度(年間1ミリシーベルト)や国が定める目標値(年間0.05ミリシーベルト)を大きく下回る年間0.001ミリシーベルト未満となっています。

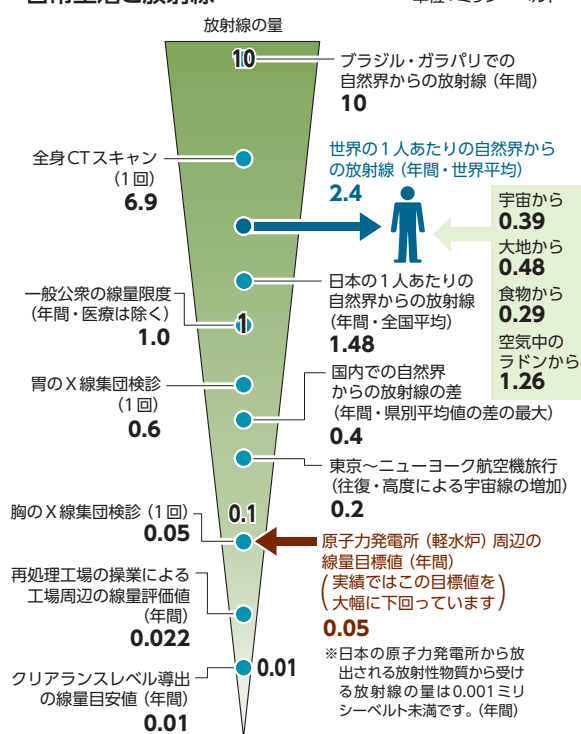
## 放射線や放射能の監視

当社の原子力発電所では、通常環境モニタリングに加え、発電所周辺の放射線量を連続して監視・測定し、当社ホームページでリアルタイムにデータを公開しています。また、当社及び佐賀県、鹿児島県では定期的に海水、農作物、海産物などに含まれる放射能を測定しており、現在まで、原子力発電所の運転による環境への影響は認められていません。

詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報 (P2参照) > [リアルタイムデータ \(原子力発電所\)](#)

## 日常生活と放射線

単位: ミリシーベルト



出典: 「原子力・エネルギー」図面集2011

## 放射性廃棄物の管理・処理

## 低レベル放射性廃棄物の管理・処理

原子力発電所から出る廃棄物のうち、微量の放射性物質を含むものが「低レベル放射性廃棄物」です。これらは、焼却や圧縮により容積を減らした上で、ドラム缶に密閉し、発電所内の固体廃棄物貯蔵庫で厳重に保管します。その後、日本原燃(株)の低レベル放射性廃棄物埋設センター(青森県六ヶ所村)に搬出・埋設処分され、人間の生活環境に影響を与えなくなるまで管理されます。

## 高レベル放射性廃棄物の管理・処理

使用済燃料の再処理過程で発生する高レベル放射性廃液に、ガラス素材を混ぜてガラス固化体にしたものが「高レベル放射性廃棄物」です。この廃棄物は、日本原燃(株)の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(青森県六ヶ所村)で30～50年間冷却のため貯蔵した後、最終的に地下300メートルより深い安定した地層に処分する方針です。当社分のガラス固化体は、2012年3月末現在で累計139本が同センターに受け入れられています。最終処分事業については、経済産業省の認可法人「原子力発電環境整備機構(NUMO)」が実施し、最終処分施設選定のために、2002年12月より全国の市町村を対象に「最終処分施設の設置可能性を調査する区域」の公募が開始されています。

放射性固体廃棄物の発生量、搬出量及び累計貯蔵量 (2012年3月末現在) 

単位: 本 (200ℓドラム缶相当)

	発生量	搬出量	累計貯蔵量	
			発電所内	埋設センター*
玄海原子力発電所	2,008	440	39,713 (38,145)	7,296 (6,856)
川内原子力発電所	1,661	320	20,318 (18,977)	320 (0)
合計	3,669	760	60,031 (57,122)	7,616 (6,856)

(注) ( )内は2011年3月末時点。

※: 低レベル放射性廃棄物埋設センター(青森県六ヶ所村)。

詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報 (P2参照) > [廃棄物の処理 \(原子力発電所\)](#)

用語集を  
ご覧ください

- 線量(率)
- シーベルト
- 放射能
- 環境モニタリング
- 再処理
- 線量評価値
- 放射性廃棄物
- 低レベル放射性廃棄物
- 固体廃棄物
- 低レベル放射性廃棄物埋設センター
- 高レベル放射性廃棄物
- ガラス固化体
- 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター
- 最終処分
- 原子力発電環境整備機構 (NUMO)

 第三者機関による審査を受審したデータ